

平素より医療関係者・介護関係者のみなさまには、若松在宅医療・介護連携支援センター（以下、当センター）の事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。



【研修会のご報告】

10月20日に第1回多職種連携合同研修会、11月8日に第2回多職種連携合同研修会を開催しました。

第1回では、九州歯科大学歯学部教授：藤井航先生と九州歯科大学附属病院歯科衛生士：松本絵里加先生にオーラルフレイル・口腔機能低下症とその対応についてご講演いただきました。口腔内のアセスメントによる早期発見や評価方法など具体的な内容で分かりやすく、口腔機能の重要性を再認識することが出来ました。また、口腔内の保湿方法や含嗽できない方のケア方法等実技を交えてご講演いただき、大変参考になりました。



第2回では、医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック理事長：永井康徳先生に「多職種連携で行う在宅医療～亡くなるまで食べるためには～」というテーマでご講演いただきました。食べられなくなった際の選択肢を提示し、家族にも考えてもらう重要性を学びました。誤嚥を恐れ絶食する事もありますが「患者さんが食べたいと言えたら食べられる」との考えから、希望のお寿司をムース状にする等、様々な取り組みの動画もあり、参加者から大好評の研修会でした。ご興味のある方はYouTubeで「たんぽぽ先生」と検索されてみてください。



【普及啓発合同講演会】

12月3日、パークサイドビル小倉（小倉北区）にて、門司センター、小倉センターと合同で「誰もが住み慣れた地域でいつまでも暮らせる街づくり～地域共生社会の実現を目指して～」というテーマで講演会を開催しました。初めに北九州市社会福祉協議会：杉本真奈美氏よりご講演をいただき、その後、門司地区、若松地区、小倉地区の代表の方から地域の実情や地域で工夫して取り組んでいることなどを発表していただきました。若松は東28区（畠田地区）自治会長の古川氏に「住民の命を守る自治会活動～買い物バス走っています～」というテーマで発表していただきました。地域の困りごとを他人事とせず我が事として考え、いざという時にお互いが助け合えるような信頼関係を日頃からつくっておくことが非常時に活かされると再認識しました。若松区も例にもれず高齢化が進んでいます。住み慣れた地域で、自分が望む生活を最期まで続けるためには専門職の支援だけでは限界があります。地域の課題一つ一つに目を向け、解決するための策を地域と一緒に講じていかなければと強く考えさせられる内容の講演会でした。



【とびうめ@きたきゅうの登録状況について】



いつも変わらぬお声掛けをありがとうございます。11月末までの新規登録者数は、33,545名、そのうち若松区内は3,876名となっており、区内65歳以上の高齢者の14.6%となりました。マイナンバーカードの活用も謳われていますが、とびうめ@きたきゅうは緊急連絡先の登録も可能です。万が一の際の安心材料として、引き続き登録促進のご協力をお願いいたします。

